

HDS028-08

会場:302

時間:5月23日 18:15-18:30

## 地震ハザード・リスク情報を活用した地域コミュニティ向け被害想定システムの開発

### Development of disaster damage anticipation tool for local community using seismic hazard or risk information

田口 仁<sup>1\*</sup>, 臼田 裕一郎<sup>1</sup>, 長坂 俊成<sup>1</sup>

Hitoshi Taguchi<sup>1\*</sup>, Yuichiro Usuda<sup>1</sup>, Toshinari Nagasaka<sup>1</sup>

<sup>1</sup> (独) 防災科学技術研究所

<sup>1</sup>NIED

地震などの大規模な自然災害の発生時は、地域コミュニティは地域内外との連携により、自主的・自律的な災害対応を行うことが必要となる。そのためには、平時からリスクコミュニケーションを通じて現状の対策の水準における災害リスクを評価し、地域内外との連携によって、対策・対応の検討や行動が引き起こされること(災害リスクガバナンス)が望ましい。

このような防災のための対策の検討や行動のためには、最新の科学的知見および研究成果が最大限に活用されるべきである。特に最近、地震動予測地図や地震ハザードマップなどの災害リスク・ハザード情報が地理空間情報として整備されてきている。したがって、地域コミュニティ自らがこれらの情報を利用して災害リスクの評価を行い、対策・対応の検討や行動のための支援が行える可能性がある。

地震ハザード・リスク情報を活用できる環境を実現するためには、2つの課題がある。それは、地域コミュニティ自らが情報を利用できる環境と、情報を利用してリスク評価を行う手法である。本発表では、地震ハザード・リスク情報を地域コミュニティ自らが情報を利用できる環境として、分散相互運用方式の有効性について取り上げると共に、分散相互運用環境下でリスク評価を支援するウェブベースのツールとそれを使った実証実験を紹介する。

キーワード: リスク評価, 地理情報システム, ハザードマップ

Keywords: risk evaluation, geographic information system, hazard map